

国語科学習指導案

平成30年9月25日(火) 第5校時 第5学年1組 指導者 野口恭平

- 1 単元名 「すぐれた表現に着目して、物語の魅力伝え合おう」
教材名 「大造じいさんとガン」
- 2 単元目標
 - 物語に関心をもち、進んで読んだり、作品の叙述を味わいながら読み深めようとしたりできる。(ア 国語への関心・意欲・態度)
 - 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読んだりすることができる。(エ 読むこと)
 - 登場人物の心情や場面の情景描写などの優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。(エ 読むこと)
 - 情景描写や文脈に応じた語句を理解することができる。(オ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 単元観

この単元は、学習指導要領「C読むこと」の指導事項、「ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること」、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」及び「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」の内容に基づく。本作品は、場面の転換や物語の山場の部分などに、登場人物の行動を表す細かい描写が見られ、心情描写や行動描写の巧みさにより、児童を物語の世界に引き込むものとなっている。

本単元では、「大造じいさん」と「残雪」の関係や心情の変化を、特に情景描写に着目して読ませ、読み取ったことをもとに、構造曲線を描き、クライマックスの一文や、作品の主題を考えさせる。それを基に、物語の魅力を感じさせていきたい。また、構造曲線を心情や行動・情景描写とともに、作品の魅力伝え合う際の根拠とさせたい。本単元では、心情の変化や、出来事の変化などを一本の線にまとめていく。できた曲線を「構造曲線」と呼び、児童には「物語のしくみ」とし、活用していきたい。

(2) 児童生徒の実態

特別支援学級の児童を含め、28人の学級編制である。授業においては多種多様な意見を自由に交換することができる。国語について、「苦手な教科は？」と聞くと「国語です。」と答える児童が半数を占め、読書経験も乏しい児童が多い。積極的に読書の機会を設けてはいるが、その効果はまだ見られない。よって、作品の全体を見通し、登場人物の気持ちが表されている描写を読み解くことができていると思われない児童が多い。本単元でも同じ事が予想される。そこで、実態に合わせて資料を別に印刷し、全体が見渡しやすいような工夫をする。また児童は、中学年で場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、叙述を基に想像して読む学習をしてきている。5年生では、「なまえつけてよ」で、人物同士の関わりを捉え、自分と比べての感想をまとめ、交流し、読みを深めた。本単元では大造じいさんの心情の移り変わりを情景描写とともに構造的に読み取らせ、物語の魅力をつかえさせたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の点に留意する。

第1次では、全体を見渡すことができるよう、全文を1枚にまとめた教材文のプリントを用い、今後の学習計画を立てていく。

第2次では、「大造じいさん」と「残雪」の関わりの中で、物語の構造に着目しながら、行動や心情を表す表現や、場面、登場人物、視点など、優れた叙述について自分の考えをまとめ、さらに友達との交流を通して、作品の読みを深めていく。本学級の児童は、国語に対する苦手意識をもっていることが明らかになっていることから、本次では上記のプリント(全文1枚プリント・構造曲線プリント)を積極的に用いる。そのことで、全体の構造を視覚的に捉えさせていきたい(俯瞰する力)。また、本次では構造曲線を中心として物語を読んでいく。構造に着目し、読むことで、全員が同じフレームの中で思考できるよう工夫する。さらに、自分の考えをもたせた上で、「考えたい」と思わせる問いを与え、ペアトークやグループ学習、席を離れての学習などを行い、討論し、さらなる問いを思いついたり、解決したりすることを通して、物語の魅力を感じさせ、より深い理解へ導いていきたい(協同する力)。

第3次では、第2次まで学習した物語の構造をもとに、作品の主題、作者である椋鳩十からどのようなメッセージを受け取ったかを自分の言葉でまとめる。また、まとめたものを友達に伝える活動を行う(伝える力)。「構造的に読む」ことを手段として内容を読み取り、感想をもたせ、読む力をつけていきたい。そして最後に、問題形式で作品を振り返ることで定着度を確認し、以後の指導に生かしたい。

またここで記した「力」は、今回だけの「力」ではなく、汎用性のあるものに一般化（抽象化）したい。具体的には、用語の統一を行うことで、後の物語文の学習で『大造じいさんとガン』の授業でやった！』と言える児童を育成したい。そのための工夫として、過去で扱った作品を例示し、似た構造であることを示したり、構造を図示することでイメージとして文章を捉えさせたりしたい。物語を構造として捉えることは、フレームワークとして物事を捉える力につながり、友だちと構造曲線の作成に取り組むことは、仲間と協同し課題を解決する力につながる。授業中や、最後の振り返りの際、教師（または気づいた児童）が意味化し、価値づけていきたい。さらに全ての授業において、「全員」が自分の考えをもち、「全員」がめあてを達成できるような学び合いができる環境作りを行う。めあてが知識・理解重視の場合は理解度の確認を教師の側から十分に行うが、思考・判断・表現重視の場合には、極力、まとめることを最小限にして、授業の終末で話し合いに係わる振り返りを行うことで、達成度を全員で確認し合う。そして、全員が達成できるための話し合いの工夫を子ども達自身が試行錯誤し、達成のために努力することを期待したい。

4 単元の指導計画（全7時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価の重点			評価規準	おおむね満足できる状況に達していないと判断される児童生徒への手だて
				関	読	言		
1	1	・学習課題「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」を設定し、学習計画を立てる。	・初発の感想を書かせておき、今後の読みの目的をもたせる。 ・学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。	◎		○	◎物語の内容や表現について関心をもち、学習の見通しをもとうとしている。	・「物語の魅力につながる表現」を、教科書p134の「たいせつ」からイメージさせるようにする。
2	2	・「残雪」との関わりの中で、「大造じいさん」の心情がどのように移り変わっていくかを物語の構造に照らし合わせ読み取る。	・行動や心情を表す表現を中心に読み、心情の変化に気づかせる。また、場面分け、登場人物の確認、視点の確認などをする。		◎		◎叙述をもとに、登場人物の相互関係を捉え、心情の変化をまとめている。	・「大造じいさん」、「残雪」の様子や行動がわかるように教科書に印を付けるようにする。
	3	・情景描写から「大造じいさん」の心情を考え、心に残る表現をまとめる。	・情景描写から心情を考えさせ、印象に残った表現と理由をカードに書かせる。		◎		◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。	・隣同士で話し合わせることで、読みを深め、情景に親しめるようにする。
	4	・作品内の登場人物、動物、季節など、比較を通して文章を深く読み取る。構造曲線を描き、物語全体を構造的に読み取る。	・「大造じいさん」の「残雪」に対する見方が大きく変わった場面と、その前までの場面を比べ、変化の理由を話し合わせる。		◎		◎物語全体を構造的に読み取って、構造曲線を描いている。	・これまでの時間にまとめたノートを振り返らせたり、友だちとノートを交換し読み合ったりさせる。
	5 (本時)	・クライマックスの一文をペア、クラス全体での学習を通して探し出す。	・ここまでの学習を踏まえ、クライマックス場面はどこか、ペアやグループで話し合わせる。		◎		◎自分の考えを発表し合いながら、クライマックスの一文を叙述に即して読み取り、ノートに記している。	・構造曲線を振り返らせ、またクライマックス場面の定義を再度振り返らせることで、どの場面がクライマックス場面として適切か考えられるようにする。
	6	・作品の主題を考える。	・物語の主題は何か、作品をもう一度精読し、内容を紙にまとめさせ、			◎	◎自分の考えをまとめたものを、相手に伝えるように叙述に即して説明できる。	・再度文章に返らせることで、深く心情に迫らせるようにする。

			主題を一言でまとめる。また、まとめたものをグループで読み合い交流する。				
3	7	・読んだ物語の構造を互い発表し合い、その感想をノートに書き、その魅力を伝え合う。 ・学習を振り返る。	・発表者が、どんな物語を読んだかについて、物語の構造に照らし合わせながら聞かせる。	◎		◎友だちの発表を聞き、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・単元のまとめとして、教科書 p133 の「ふりかえろう」や「自分の考えをもとう」について考えさせる。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

これまでにまとめてきた「大造じいさんとガン」の構造をもう一度振り返り、クライマックスの一文がどこか読み取り、その一文を選んだ理由を友達に説明できる。

(2) 授業の観点

物語の構造を読み解く上で、友達との交流を通じて自分の考えを深め、伝え合うことを通して新たな考えをもつことができていたか。「全員」がめあてを達成するために、子どもたちは行動できていたか。

(3) 展開

学習活動	時	教師の指導・支援と評価	準備物
1 本時の学習内容を確認する。	00	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返らせる。 	全文一枚プリント ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時のめあて クライマックスの一文を見つけ、その一文を選んだ理由を書くことができる。 </div>			
2 クライマックス場面を考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> クライマックスの一文を考えるに当たり、「何が変わったか」、「どのように変わったか」、「どうして変わったか」を問うことで、中心人物の心情の変化に焦点化する。 席を離れて、他の人の意見を聞いたり、自分の意見を話したりすることで、さらに考えを深めることができる。 他の人と意見を交換する際、その一文を選んだ理由に話し合いを焦点化するために、「なんでそう思ったの？」という問いを使うことを伝える。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> クライマックスの一文は、どの文だろう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 大造じいさんの心が大きく変化した部分はどこだろう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> クライマックスの前と後で、大きく変わった表現はどれだろう。 </div>			
3 全体でクライマックス場面について全体で意見交換を行う。	35	<ul style="list-style-type: none"> 何人かに発表させ、意見の違いがあっても、自分の考えよりも、相手がなぜそう思ったかを考えさせるようにする。 答えを一つに絞るというのではなく、叙述に即して考えさせた上で、各自が納得できるものをクライマックスの一文とする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価 「大造じいさんとガン」を読んで、クライマックスの一文を叙述に即して読み取っている。(ノート・発表) </div>			
4 振り返りを行う。	43	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の感想をノートに書かせる。 学習計画を確認させる。 	

